令和3年度
自己評価報告書

令和４年６月２６日

学校法人 タイケン科学学園
日本ウェルネス保育専門学校

１．学校の現況

（１）．学校名

日本ウェルネス保育専門学校

（２）．所在地

東京都千代田区神田神保町1丁目52番地4

（３）．沿革

平成19年 4月	設置者変更により学校法人篠原学園設立(理事長 篠原欣子)
平成20年 12月	東京都千代田区神田神保町1丁目52番地4に新校舎竣工
平成21年 4月	こども保育学科昼間部を開設
	指定保育士養成施設として指定を受ける
平成21年 4月	お茶の水医療秘書歯科助手専門学校から篠原学園専門学校に校名変更
平成22年 8月	医師事務作業補助技能認定試験の受験認定校の指定を受ける
	(東京都の専門学校として第1号)
平成23年 3月	こども保育学科夜間部が指定保育士養成施設として指定を受ける
平成23年 4月	こども保育学科夜間部を開設
平成24年 3月	こども保育学科昼間部 第一期生卒業
平成24年 4月	医療情報管理学科に医療保育コースを新設
平成26年 4月	篠原学園専門学校から篠原保育医療情報専門学校に校名変更
平成28年 12月	理事長　篠原欣子から新理事長　柴岡三千夫が就任
平成30年 4月	学校法人タイケン科学学園　日本ウェルネス保育専門学校に法人名及び校名変更

（４）．学科の構成

こども保育学科(昼間部・夜間部)
こども保育専攻科
医療事務学科
医療事務学科専攻科

（５）．学生数及び教職員数　（令和3年5月1日）

①学生数　90名

学科	学生数
こども保育学科	10 名
こども保育学科（夜間部）	0 名
こども保育専攻科	0 名
医療事務学科	80 名
医療事務学科専攻科	0 名

②教員数　42名

学科	専任教員	兼任教員
こども保育学科・医療情報管理学科	8 名	34 名

③職員数　4 名

（６）．建学の理念、学校の教育目標

【建学の理念】
社会から望まれる専門知識と技術をもち、豊かな人間性を兼ね備えた人材を育成する

【教育目標】
建学の理念を実現するために、次の5つの力を備える。
１．思いやりの心
２．感謝の気持ち
３．謙虚さ
４．チーム・組織内における協調性
５．主体的な行動力

（７）．本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

外部への情報公開を一層展開していくことで、外部に広く開かれた学校づくりを進める。

具体的には、次の4つに取り組む

①自己評価報告書の中間報告を行う（平成25年度は最終報告のみ実施）。

②学校評価関係者委員会を2回実施する（平成25年度は1回）。

③授業評価結果を学校ホームページ等で外部に公開する。

④学校満足度調査結果を外部に公開する。

２．自己評価の実施方法

学校長の指示のもと、法人本部長、事務局長、学科長が評価表を作成し、各項目について、点検、評価を行った。各項目について、4段階（適切、やや適切、やや不適切、不適切）で評価し、課題や今後の改善方策を検討した。

３．自己評価の項目

自己評価は、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて、以下の10項目について実施した。
（１）．教育理念・目標
（２）．学校運営
（３）．教育活動
（４）．学修成果
（５）．学生支援
（６）．教育環境
（７）．学生の受入れ募集
（８）．財務
（９）．法令等の遵守
（10）．社会貢献・地域貢献

４．評価項目の達成及び取り組み状況

（１）．教育理念・目標

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか　(専門分野の特性が明確になっているか)	(4)・3・2・1	学校の教育目標のもと、各学科が育成する学生像を定めている。
・ 学校における職業教育の特色は何か	(4)・3・2・1	「就職研究」や「現場実践研究」の授業を通して、社会に出てからの数年後を見据えたうえで、本当になりたい自分を実現するためのキャリア形成に力を注いでいる。また、現場実践を通して、それぞれの職業に必要な知識や技術を学ぶ演習・実習を展開している。
・ 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	(4)・3・2・1	平成21年度のこども保育学科開設以降、男女共同参画社会で活躍する保育者の養成という将来構想のもとに、学校づくりを進めている。
・ 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	(4)・3・2・1	学生に配布する『学生ガイドブック』や学校ホームページに掲載している。入学時には保護者懇談会、年度末には保護者向けの就職説明会を実施している。
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	(4)・3・2・1	保育現場からの情報により業界のニーズを理解し、各学科の教育目標、育成人材像を定めている。

①課題

・令和3年度に引き続き、学生及び保護者等に対し、男女共同参画社会で活躍する保育者の養成という将来構想の周知について、かなり改善しているものの更なる周知に努める。

②今後の改善方策

引き続き、機会ある毎に啓蒙活動を実施する。

③特記事項

「教育理念・目標」を更に達成していく所存である。

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（２）．学校運営

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 目的等に沿った運営方針が策定されているか	(4)・3・2・1	建学の理念、教育目標、将来構想に基づき、単年度の重点目標を定めている。
・ 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	(4)・3・2・1	単年度の重点目標に沿って、分掌ごとの目標を策定している。
・ 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4・(3)・2・1	校務分掌一覧や委員会一覧等により運営組織を明確化しているものの、やや人力不足である。
・ 人事、給与に関する規程等は整備されているか	(4)・3・2・1	日本ウェルネス保育専門学校就業規則において人事及び給与規定を定めている。
・ 教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4・(3)・2・1	月に１回以上、理事長を含めた経営会議を開催し、教務・財務の意思決定を行っている。
・ 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	(4)・3・2・1	セクシャルハラスメント防止及び喫煙防止規定を定めるとともに全職員にマナーに関する参考書を配布し、周知徹底を図っている。また定期的にマナー研修も行っている。
・ 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	(4)・3・2・1	入学案内書、学校ホームページにおいて、情報を公開している。
・ 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4・3・(2)・1	サイボウズに代わる新たなシステムを模索中である。

①課題

・教務・財務等の組織整備など意思決定システムにおいて、1回／月の経営会議の開催は達成できたものの1回の開催では十分とは言えない月があった。

②今後の改善方策

・引き続き、業務円滑化のため必要月の4月、12月にも会議開催を模索する。

③特記事項

特に無し

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（３）．教育活動

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	(4)・3・2・1	学生が自らの希望に沿った形でキャリアを展開し続けられるよう、幅広い進路選択を可能にする教育課程を編成している。
・ 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	(4)・3・2・1	こども保育学科では、単なる専門知識習得が中心にならないよう、保育現場との連携が十分とれる2年制課程で養成をしている。
・ 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	(4)・3・2・1	業界のニーズを踏まえて、保育を無理なく、体系的学ぶことができるカリキュラムを編成している。
・ キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	(4)・3・2・1	就職研究や現場実践研究等のカリキュラムで、各業界で必要なスキルの実践的な教育を1年次より実施している。
・ 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	(4)・3・2・1	大きなカリキュラムの変更見直しは実際には難しいが、実習先や卒業生の就職先への定期的な訪問による有益な情報を、各教科の教員から学生に提供するように努めている。
・ 関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	(4)・3・2・1	病院実習や保育実習等の授業で、医療機関や保育園・児童養護施設などで実習を実施している。
・ 授業評価の実施･評価体制はあるか	(4)・3・2・1	全科目を対象に、年2回（前期・後期）に学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を次期の授業に反映している。
・ 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	(4)・3・2・1	実習先や就職先に訪問した際に個別に評価を聞き、その内容を職員会議や学科会議で共有している。
・ 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	(4)・3・2・1	学則に定め、『学生ガイドブック』に掲載している。
・ 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	(4)・3・2・1	医療情事務学科では、通常授業内に対策授業を実施している。また、授業外で適宜に資格対策講座を行っている。
・ 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	(4)・3・2・1	教員採用にあたっては、保育現場や医療現場での経験や研究実績に加えて、学生への指導実績も考慮している。

・　関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	(4)・3・2・1	専門分野に関する実務経験や研究業績に深く関わっている教員を確保できるよう、保育現場や医療現場の管理職員との情報交換を定期的に実施している。
・　関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	(4)・3・2・1	専門分野の学会等が主催する研修や勉強会に各学科の教員は定期的に参加している。
・　職員の能力開発のための研修等が行われているか	(4)・3・2・1	キャリア教育を含めた学生支援の研修会やビジネススキルやパソコンスキルの向上を目的とした研修会に定期的に参加している。

①課題

・全項目について「適切」と評価したが、改善の余地がある項目もある。

②今後の改善方策

・上記課題を解決すべく、問題点を分析評価し改善策に結び付ける。特に資格試験対策を更に充実を図る。

③特記事項

＜令和2年度の教職員研修＞
日本ウェルネス保育専門学校が所属するタイケン学園グループが主催する職員研修（４、１２、３月に実施）及び日本ウェルネススポーツ大学が主催するFD研修に職員全員が参加し、実戦能力及び知見の向上を図っている。

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（４）．学修成果

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 就職率の向上が図られているか	4 ・ (3) ・ 2 ・ 1	担任とキャリア支援スタッフによるダブルサポート体制を整えている。 2022年3月の卒業生(目標) こども保育学科67% （前年度100%）
・ 資格取得率の向上が図られているか	(4) ・ 3 ・ 2 ・ 1	資格取得を意識した授業カリキュラムを編成し、授業外に対策講座を設けている。
・ 退学率の低減が図られているか	4 ・ (3) ・ 2 ・ 1	2021年度退学率5%以下（目標）2021年度退学率16% （前年度５%） 奨学金や教育ローン等の経済支援のサポート、学生相談室の設置による学生のメンタル面のサポートに力を入れている。
・ 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	(4) ・ 3 ・ 2 ・ 1	実習先訪問を通じて、卒業生や実習生（在校生）の活躍及び評価を把握している。
・ 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	(4) ・ 3 ・ 2 ・ 1	本校のキャリア・サポーター（㈱タイケンキャリアカレッジ）を中心に、学生がキャリアデザインを考える授業を実践している。

①課題

・令和2年度と同様に依然としてメンタル面を主な原因と考えられるが、留学生はビザ不交付が要因であるので、学習面、金銭面での指導を強化する。

②今後の改善方策

・上記課題を克服すべく、担任とスクールカウンセラーと緊密な連携を図り、きめ細かな身上把握に努めるとともに保護者とも必要の都度連絡をとる。今後も常に退学率の低減を考え、学生との距離の保ち方を様々な方策で講じていくこととする。

③特記事項

活躍している卒業生を、学校ホームページ等で学校内外に紹介している。

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（５）．学生支援

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 進路・就職に関する支援体制は整備されているか	(4)・3・2・1	担任と就職スタッフとの緊密な連携により、学生一人ひとりに合った就職指導体制を整備している。
・ 学生相談に関する体制は整備されているか	(4)・3・2・1	学生相談室を設け、スクールカウンセラーが相談に対応している。また、全クラスに担任を置いている。
・ 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	(4)・3・2・1	独自の学納金減免制度を設置整備し、学校ホームページ等で周知している。
・ 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	(4)・3・2・1	年1回毎年4月に実施し、学科長及び担任教員が診断結果を把握している。
・ 課外活動に対する支援体制は整備されているか	(4)・3・2・1	学生が作ったサークル活動に学校施設を提供している。
・ 学生の生活環境への支援は行われているか	(4)・3・2・1	学生相談室のスクールカウンセラーを中心に支援している。
・ 保護者と適切に連携しているか	(4)・3・2・1	成績表、学科だよりの発送や就職説明会の案内、担任による定期的な家庭への連絡を実施している。
・ 卒業生への支援体制はあるか	(4)・3・2・1	卒業時に、卒業生には、学生相談室の利用や校内での担任への相談はいつでも可能であることを伝えている。
・ 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	(4)・3・2・1	働きながら専門教育が受けられるよう、夜間部を設置している。
・ 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	(4)・3・2・1	高等学校の総合学習の時間を活用して、専門分野の授業を定期的に実施している。

①課題

令和3年度卒業の留学生は、就職内定率約86%であった、今後更に就職支援を強化し、95%以上を目指す。

②今後の改善方策

引き続き、きめ細かな学習及び生活指導を実践して行く。

③特記事項

・学納金減免制度として、タイケン福祉会奨学金、高等教育無償化制度、学生支援機構給付型奨学金制度、指定校推薦入学制度を用意している。

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（６）．教育環境

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1	厚生労働省の設置基準に則り、施設を適正に整備している。
・ 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1	すべての学科において、学外での医療機関や保育園・児童養護施設などの実習を受講するよう教育体制として整えている。また、今年度はタイケン福祉会と連携してインターシップにも取り組んだ。
・ 防災に対する体制は整備されているか	④ ・ 3 ・ 2 ・ 1	『学生ガイドブック』に、校舎避難経路図を収載している。 防火訓練及び防災訓練を兼ねて1月 日実施し、学生及び職員が全員参加し、意識高揚を図った。 災害時の備蓄に関して、水、食料を備蓄している。

①課題

防災訓練をは、実働で1回実施したが、近年の災害多発状況を踏まえ、今後は、年2回を目指す。

②今後の改善方策

・引き続き、定期的に図書類を見直し逐次更新して行く。

③特記事項

特になし。

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（７）．学生の受入れ募集

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 学生募集活動は、適正に行われているか	(4)・3・2・1	学校説明会・オープンキャンパス以外に、ＳＮＳ、高校個別訪問、オンライン相談、個別オープンキャンパス等いつでも学校見学をできる体制も用意している。
・ 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	(4)・3・2・1	学校案内とホームページに掲載。学校内の授業や学校行事の様子をホームページのブログに随時掲載。
・ 学納金は妥当なものとなっているか	(4)・3・2・1	入学金、施設費、授業料、諸経費のいずれも他校とより低めに設定し、学生負担を軽減している。

①課題

・募集専任職員は、1名であるが、全職員営業とマンとなり、創意工夫と効率化により、実効性ある募集を図る。

②今後の改善方策

タイケングループ内の他の専門学校等(日本ウェルネススポーツ大学、日本ウェルネススポーツ専門学校、日本ペットアンドアニマル専門学校及び日本ウェルネス歯科衛生専門学校)に対し、個別学校訪問の際、同時に本校の学校説明を依頼し、営業効果の向上を図る。

③特記事項

・タイケン学園グループ職員総員が日本ウェルネス保育専門学校について説明できるよう意識改革を実施中。

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（８）．財務

評価項目	適切…４、やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	(4)・3・2・1	在籍学生数は令和元年度創設の医療事務学科により増加しており、中長期的には、安定した財務基盤となる。
・ 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	(4)・3・2・1	予算・収支計画は、毎年各事業部長と打合せを行い有効かつ妥当な数字が出されている。
・ 財務について会計監査が適正に行われているか	(4)・3・2・1	公認会計士と一部上場企業の経験者に外部監査役を依頼し、毎年５月に会計監査を実行している。
・ 財務情報公開の体制整備はできているか	(4)・3・2・1	平成25年度より、学校ホームページにて資金収支報告書・消費収支報告書及び貸借対照表を公開をした。

①課題

特になし。

②今後の改善方策

特になし。

③特記事項

・特になし

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（９）．法令等の遵守

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	(4)・3・2・1	設置や運営に関して、法令を遵守している。また東京都の現況調査を実施し、報告している。
・ 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	(4)・3・2・1	「学校法人タイケン科学学園個人情報保護方針」を定め、問題が生じた場合の対策を含め、『学生ガイドブック』に記載し、配布している。学校説明会や学校見学等による来校者に対しての個人情報管理ついても職員へ注意喚起を促している。
・ 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	(4)・3・2・1	学生に教育活動全般、授業に関するアンケートを実施。その結果を教員、就職スタッフを中心に検討し、改善を試みている。
・ 自己評価結果を公開しているか	(4)・3・2・1	平成25年度以降、年度ごとに評価結果を公開している。

①課題

・特になし。

②今後の改善方策

・特になし。

③特記事項

・特になし。

４．評価項目の達成及び取り組み状況
（10）．社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…４、 やや適切…３、 やや不適切…２、 不適切…１	備考：取り組みの内容
・ 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	(4)・3・2・1	職場体験の受け入れ、職業講話実施（高校生対象）。地方からの修学旅行生（中学生）の受け入れなど。
・ 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	(4)・3・2・1	学生を保育園からの依頼により、テープスアート展示、英会話指導でボランティアで支援している。
・ 地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	(4)・3・2・1	東京都教育訓練給付金制度で計3名を受託している。

①課題

・地域へのボランティア活動では、在学生数の減少のため、学生の参加できなかった。

②今後の改善方策

・上記課題を克服するため、あらゆる機会を通じ啓蒙を図る。

③特記事項

・〈参考資料〉校舎避難経路図　P. 18・19に掲載。

５　検討項目
（１）オンライン教育の在り方について

①課題

オンライン教育におけるコンテンツ作成及びオンラインソフトの操作要領、全館WIFI化に課題

②今後の改善方策

全授業につきコンテンツを整備し、標準化を図る。またオンラインソフトの機能、操作に習熟していく。併せて全館オンライン化を検討する。

③特記事項

特になし。

５　検討項目
（２）医療事務学科の教育効果と今後の方向性について

①課題

外国人学生のテキスト読解力に一部不十分な学生もいるため、テキストの丁寧な説明に心がける必要あり

②今後の改善方策

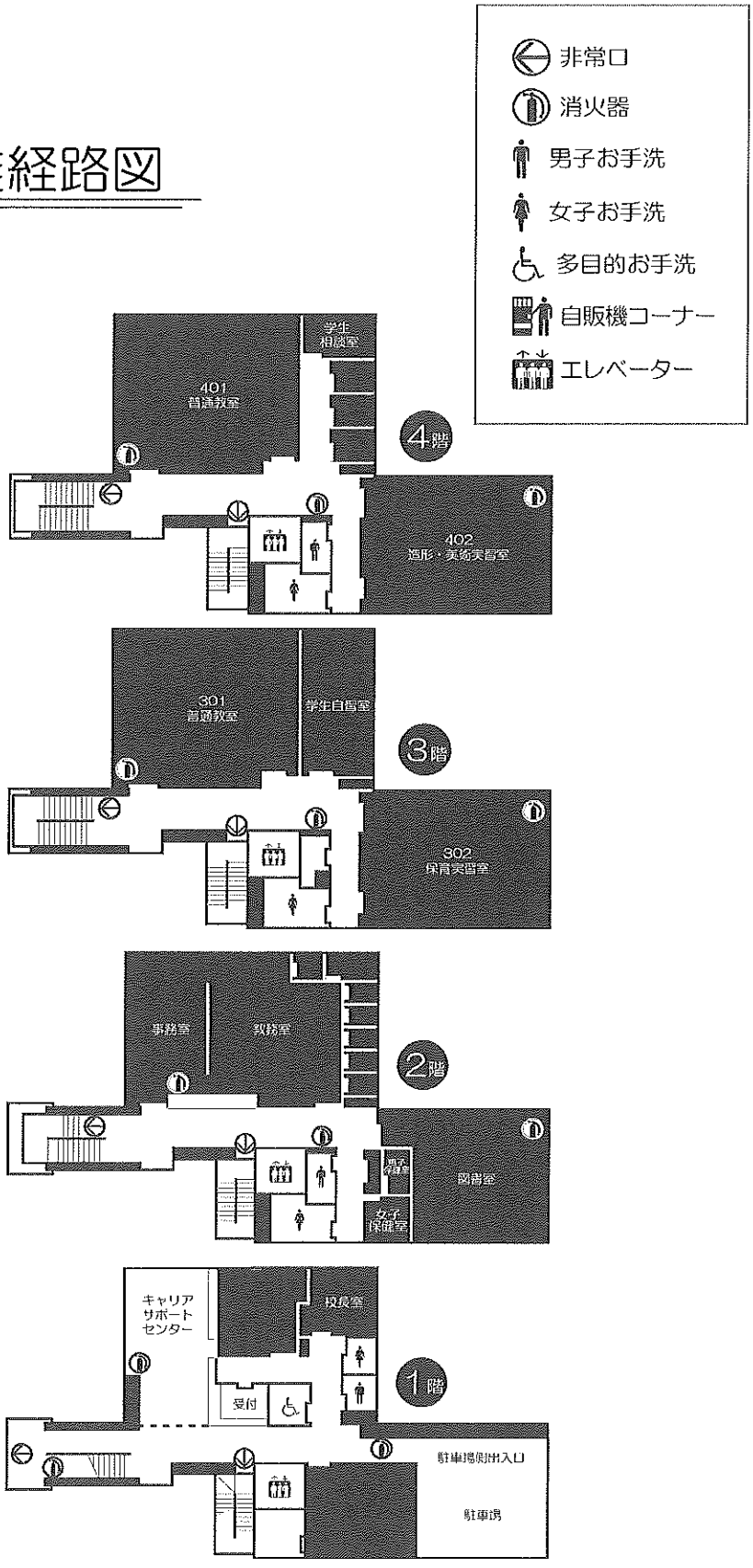
テキストの丁寧な説明とともに、専門用語集を作成し、理解の促進を図る。

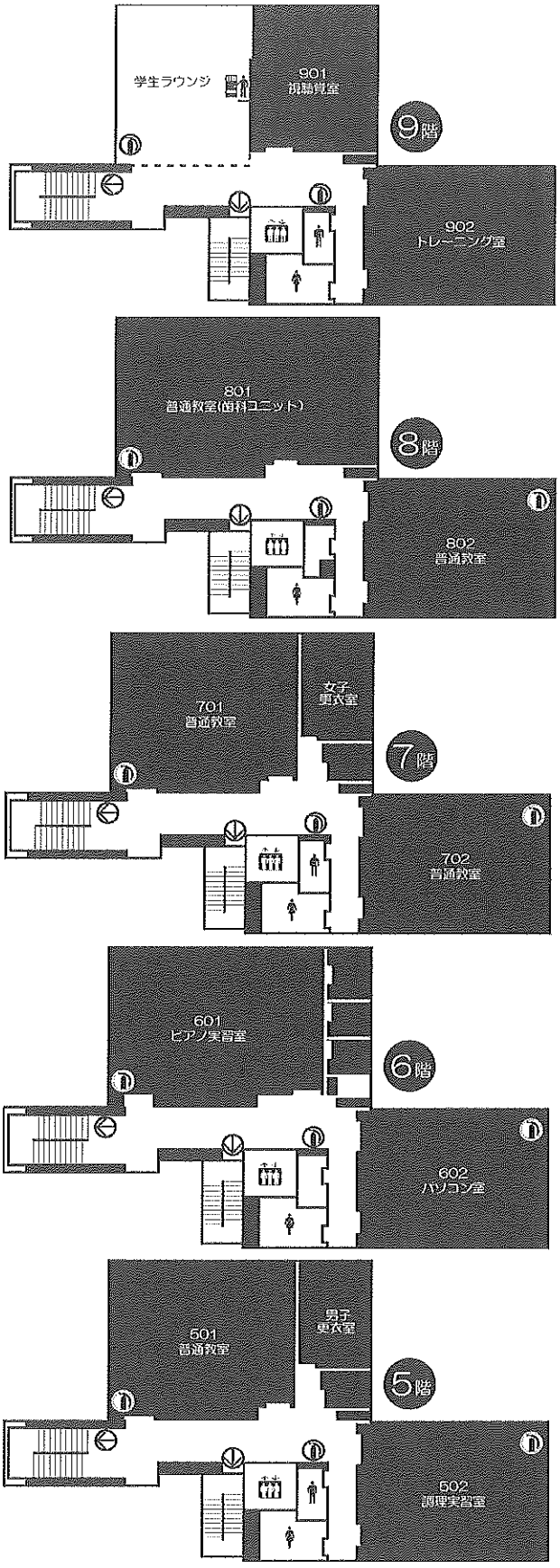
③特記事項

この学科は、外国人主体であるが、資格取得を目指し、教育を進めて行く。但し、彼らの継続的努力により、就職内定率は、約８６％であり、教育効果は大と思料する。

6. 参考資料
（1）. 校舎避難経路図

校舎避難経路図




学生ラウンジ
901
視聴覚室
9階
902
トレーニング室
801
普通教室(歯科ユニット)
8階
802
普通教室
701
普通教室
女子
更衣室
7階
702
普通教室
601
ピアノ実習室
6階
602
パソコン室
501
普通教室
男子
更衣室
5階
502
調理実習室

（2）．個人情報保護について

「個人情報の保護に関する法律」の施行に伴い、学校法人タイケン科学学園では「個人情報保護方針」を定め、個人情報の適正な管理と保護に努めてまいります。

学校法人タイケン科学学園個人情報保護方針

１．個人情報の保護に関する宣言
学校法人タイケン科学学園は、「個人情報保護に関する法律」の趣旨及び個人情報保護の重要性を深く認識し、個人情報の取得、利用、管理、保管などを適切に行うことを宣言します。

２．個人情報の保護の取り組み
学校法人タイケン科学学園は、組織的に個人情報保護を行うため、必要な規程、体制を整備します。あわせて、教職員に対する個人情報保護に関する教育、研修を定期的に行い、個人情報保護の意識を高めます。

３．個人情報の取り扱いについて
学校法人タイケン科学学園は個人情報の取得にあたり、その利用目的を示すとともに、その目的を達成する範囲でこれを利用します。本校は、収集した個人情報を無断で第三者に提供することは一切ありません。

学校法人タイケン科学学園は個人情報に関して、開示などを求められた場合、合理的な期